

講演会のお知らせ

Ibn Arabi's Journey in God and Its Central Asian Reception

「神を旅する」

イブン・アラビー思想の中央アジアにおける受容

Marc Toutant

(Centre National de la Recherche Scientifique CNRS), France

本講演では、中央アジアの詩人ナヴァーイー（1441-1501）著『敬虔な人々の困惑（ハイラト・アル=アブラール）』で展開される神智学的なナラティブの中で「心」がどのように描写されているのかを明らかにします。同書では、スーフィーの心は3つの「困惑」を経験し、最終的に神の唯一性を「目撃（証言）」します。これはイブン・アラビーの著作『旅の果実からの開頭の書』において示されているテーマでもあり、イブン・アラビー思想との関係性からナヴァーイーを読み解きます。

マルク・トゥタン (Marc Toutant)

フランス国立科学研究センター (CNRS) 研究員。専門はイスラーム神秘主義 (スーフィズム) 思想および中央アジア・ペルシア文学。15世紀中央アジアの代表的な詩人・思想家であるアリ・シール・ナヴァーイー (アリシール・ナボイ) をはじめ、中央アジアにおけるスーフィズム詩の受容や神智学思想の変遷について精力的な研究を展開している。

Friday 10 July, 17:00-18:00 (18:10-18:30 Q&A)

Conference Room (17th Floor, Global Front),

Surugadai Campus, Meiji University

明治大学 国際交流基金事業「Researcher Mobility Grant」

共催：明治大学 国際連携本部 問い合わせ：明治大学文学部 井上貴恵 (inouekie@meiji.ac.jp)